

ゲーテ大学 言語学・文化学・芸術学部

ゲーテ大学は、1914年の設立期より、社会科学における研究、教育に重点が置かれ、1924年には、のちに「フランクフルト学派」、「批判理論」の名称で有名になる社会研究所が設立された。

言語学・文化学・芸術学部のオリエンタル及び東アジア学に含まれる日本学では、日本文化・文学研究、日本文化史・思想史研究が、二本の柱となっており、本学部のカリキュラムと重なり合うものも多い。



ゲーテ代表作『ファウスト』『若きウェルテルの悩み』



留学した先輩たちの体験談から

学校生活①(授業について)

- 試験はプレゼンが大変。カンペを見たりするのではなくフリートークで話す。時間をかけて練習した。
- 授業はドイツ語のものを選択。日本についての授業なので理解しやすいと思う。
- 日本学と語学の課題は、プレゼンとレポート。レポートは文字数が多い。学期末の試験に向けて復習することが大切。

日常生活

- 出国前に申し込んでいた大学のバディプログラムでできたドイツ人のバディと共に授業を受けたり、日本語学科を中心に友達ができた。
- タンデムでは日本語を話したい子とドイツ語を話したい私で色々な場所に行って互いに文化や言語を教え合ったりした。
- 寮の人と一緒に食事に行ったり、すれ違ふと絶対に笑顔で挨拶をするし、寮の雰囲気は良い！

学校生活②(学風・学生について)

- 大学は自然が溢れるところに設置されており開放的な雰囲気。
- ドイツ人だけでなく、ヨーロッパを主とした様々な国の学生が通う国際色豊かな大学。
- ドイツ人も留学生も勉強に対してストイック。そのためとても刺激を受けた。

アドバイス！ 英語での留学として留学条件を満たしましたが、実際には多くの授業がドイツ語でしたので、毎日語学学校に通い、必死にドイツ語の勉強をしました。最初、留学生同士では英語を話すことも多かったのですが、英語を話す力もあればなお良いと思います。語学以外にはドイツの文化を調べておくと、生活しやすいと思います。

どうしてここを選んだの？

- 自分が今まで全く勉強したことのないドイツ語を話すドイツに飛び込めば、英語圏よりもさらに環境が変わり、学ぶものも多いのではと思いました。
- 日本から見た日本と、世界から見た日本は違うのではないかと思い、客観的に日本という国を見たいと思いました。
- 第二外国語でドイツ語を履修していたこと、EUのリーダーであるドイツの経済に興味を持ったことなどから留学を決めました。

留学を考えている人へ

もし今、あなたが挑戦できる環境にいるならば迷わず挑戦すべきだと思います。留学に行って後悔したと言っている方の話を聞いたことがありません。大変なことや辛いことはあります。実際に私も大変だったし何度も辛い思いをして泣いた日もありました。ですが、それよりも行ってよかったと思える経験や体験が、達成感や成長などの“なにか”があるのです。

(2018年度留学：女性)

「ドイツ生活は思った以上に大変だけど新鮮で刺激的で何より楽しい」。留学をすることで多様な価値観や考え方に触れて視野が広がりますし、勉強することの大切も実感できます。そして何より外国で困難なことを乗り越えながら成長していくことが楽しいです。ぜひ挑戦してください。

(2019年度留学：女性)